

発展

\* 25

## 第2章 平面上のベクトル 1・ベクトルとその演算

## 4 ベクトルの内積 (その5)

【No. 25の後で学習☆発展問題】 (1/3)

## ベクトルの大きさと最小値 (内積利用)

◇ 《ベクトルの大きさと最小値 (内積利用)》 学力化 → /

## ★解法の技術★

ベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  について,  $|\vec{a}| = \sqrt{3}$ ,  $|\vec{b}| = 2$ ,  $|\vec{a} - \vec{b}| = \sqrt{5}$  であるとき,

- (1) 内積  $\vec{a} \cdot \vec{b}$  の値を求めよ。
- (2) ベクトル  $2\vec{a} - 3\vec{b}$  の大きさを求めよ。
- (3) ベクトル  $\vec{a} + t\vec{b}$  の大きさが最小となるように実数  $t$  の値を定め, そのときの最小値を求めよ。

【考え方】 大きさの問題は, 2乗して展開すると, 与えられた条件が使えるようになる。

$$(1) |\vec{a} - \vec{b}|^2 = \sim, (2) |2\vec{a} - 3\vec{b}|^2 = \sim, (3) |\vec{a} + t\vec{b}|^2 = \sim$$

(3) は  $t$  の2次式になるから, 平方完成することで, 最小値が求まる。

[答 案]

《条件》

$$\vec{a} = (*) \quad |\vec{a}| = \sqrt{3}$$

$$\vec{b} = (*) \quad |\vec{b}| = 2$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta = \sqrt{3} \times 2 \times \cos \theta = 2\sqrt{3} \cos \theta \quad \dots \textcircled{1}$$

$$|\vec{a} - \vec{b}| = \sqrt{5} \quad \dots \textcircled{2}$$

◀成分が与えられていないときは, 内積の定義を使う。

①と②より,

$$|\vec{a} - \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = (\sqrt{5})^2$$

$$(\sqrt{3})^2 - 2 \times 2\sqrt{3} \cos \theta + 2^2 = 5$$

◀2乗して展開すると, 与えられた条件が使える形になる。

$$3 - 4\sqrt{3} \cos \theta + 4 = 5$$

$$-4\sqrt{3} \cos \theta = -2$$

$$\cos \theta = \frac{1}{2\sqrt{3}} \quad \dots \textcircled{3}$$

《問題》

(1) ①と③より,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 2\sqrt{3} \times \frac{1}{2\sqrt{3}} = \underline{1}$$

(次のページへつづく) ↗

## □ □ 【ベクトルとその演算 No. 25 s (1/3)】 - 〈2枚目/2枚〉

➤ (前のページからのつづき)

$$\begin{aligned}
 (2) \quad |2\vec{a} - 3\vec{b}|^2 &= 4|\vec{a}|^2 - 12\vec{a} \cdot \vec{b} + 9|\vec{b}|^2 \\
 &= 4 \times (\sqrt{3})^2 - 12 \times 1 + 9 \times 2^2 \\
 &= 12 - 12 + 36 \\
 &= 36
 \end{aligned}$$

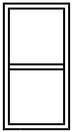
$$\begin{aligned}
 |2\vec{a} - 3\vec{b}| &\geq 0 \text{ より,} && \blacktriangleleft \text{絶対値は正} \\
 |2\vec{a} - 3\vec{b}| &= \underline{6}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 (3) \quad |\vec{a} + t\vec{b}|^2 &= |\vec{a}|^2 + 2t\vec{a} \cdot \vec{b} + t^2|\vec{b}|^2 \\
 &= (\sqrt{3})^2 + 2t \times 1 + t^2 \times 2^2 \\
 &= 3 + 2t + 4t^2 && \blacktriangleleft t \text{ の 2 次 式} \\
 &= 4\left(t^2 + \frac{1}{2}t + \frac{1}{16} - \frac{1}{16}\right) + 3 && \blacktriangleleft \text{平方完成} \\
 &= 4\left(t + \frac{1}{4}\right)^2 - \frac{1}{4} + 3 \\
 &= 4\left(t + \frac{1}{4}\right)^2 + \frac{11}{4}
 \end{aligned}$$

よって、 $|\vec{a} + t\vec{b}|^2$  は  $t = -\frac{1}{4}$  のとき最小値  $\frac{11}{4}$  をとる。

$|\vec{a} + t\vec{b}| \geq 0$  であるから、このとき  $|\vec{a} + t\vec{b}|$  も最小となる。

したがって、 $|\vec{a} + t\vec{b}|$  は  $\underline{t = -\frac{1}{4} \text{ のとき最小値 } \frac{\sqrt{11}}{2} \text{ をとる。}}$



第2章 平面上のベクトル 1・ベクトルとその演算

**4** ベクトルの内積（その5）

【No. 2 5の後で学習☆発展問題】（2 / 3）

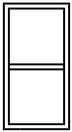
◇ 《ベクトルの大きさ と 最小値（内積利用）》 **学力化** → / ,

-----★理解のチェック★-----

ベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  について,  $|\vec{a}| = 2$ ,  $|\vec{b}| = 1$ ,  $|\vec{a} + 3\vec{b}| = 3$  とする。  $t$  が  
実数全体を動くとき,  $|\vec{a} + t\vec{b}|$  の最小値は  である。

[類 慶応大]

-----  
[答 案]



第2章 平面上のベクトル 1・ベクトルとその演算

**4** ベクトルの内積 (その5)

【No. 25の後で学習☆発展問題】 (3 / 3)

◇ 《ベクトルの大きさ と 最小値 (内積利用)》 **学力化** → / ,

◇ 発展演習 ◇ **【 1 】**

$|\vec{a}| = 4, |\vec{b}| = 5, |\vec{a} - \vec{b}| = \sqrt{21}$  のとき,  $|\vec{a} + t\vec{b}|$  の最小値を求めよ。  
ただし,  $t$  は実数とする。

[答 案]